

福島医療生協の 現況

(2011年5月末現在)

組合員

28,651名

出資金

8億13,440千円

一人平均

28,390円

ふくしま



発行所
福島医療生協

2011年7月号 第330号

発行責任者 渡辺幸夫

http://www.fmc.u-coop.or.jp

医療生協

福島医療生活協同組合 TEL 024-522-1236
〒960-8141 福島市渡利字中江町66番地
医療生協わたり病院 TEL 024-521-2056
〒960-8141 福島市渡利字中江町34番地

原発事故の一回も早い収束と 全面補償を

東日本大震災復興・原発事故対策委員会を設置

福島医療生協は原発事故対策として、被災によって発生している問題の把握と必要な支援、放射線被害から生命と健康を守るとりくみ、被災の補償とエネルギー政策の転換を求めるとりくみなどを行います。この方針を推進するために「東日本大震災復興・原発事故対策委員会」を設置しました。県北地域における福島医療生協の役割は一層大きくなってきています。



▶総代会で、山木屋の現状について報告した鳴原春男さん

原発事故で山木屋は崩壊の危機

当生協の日常的な活動地域の一部である飯館村及び川俣町山木屋地区が計画的避難地域に指定されました。山木屋地区は一年間の積算放射線量が二十ミリシー

ベルトを超える三十二ミリシーベルトであることが分かり、農業の生産基盤である畑からも、五千六百九十ヘクタールの放射線が検出され、作物が作れる土地ではなくなりました。現時点で山木屋のほぼ百パーセントにあたる千二百人あまりの人々が、避難生活をしています。家族は引き裂かれ、住民の連絡網も整備されていない状態で、原発事故により地域社会は崩壊に瀕しています。そして現在、地区の専業農家は完全失業の状態となっています。

避難者生活を余儀なくされている、組合員の鳴原春男さんに避難先の川俣ホテルでお話をうかがうことができました。

組合員の鳴原さんは今

鳴原さんは山木屋生まれで、妻のノブ子さんと二人暮らしです。借地を含め約五町歩の農地を保有し、たばこ和牛の繁殖を中心とする専業農家です。長年医療生協の総代をつとめ、川俣支部の手配りさんに機関紙を届けています。今回の避難のためにたばこ栽培を断念。飼育していた牛も売り払いました。

農家にとって土地を離れるのは致命的

四十五年間農業一筋に携わってきた鳴原さんは「農業は継続がものをいう」とい



▲福島県たばこ組合理事・医療生協の組合員でもある菅野利一さんと話す、春男さんとノブ子さん

ます。農家は今年の作付け作業をしながら、来年の準備を同時並行に行っています。山木屋地区は冷害の常襲地区で有名ですが、平成五年の冷害被害を克服できたのも、常に来年、再来年の準備を継続してきたからです。農家にとって次年度以降の準備を何も出来ないことは致命的です。作物を売らせる耕土を作りあげるために、何十年もの歳月を費やします。セシウムの除去のために表土五センチを削り取ったとしても、すぐに生産活動が再開できないと言います。そして農業は、さまざまな職業をもつ人々が集まる地域社会がなければ成り立たないとも言います。将来の山木屋の農業の再生は、山木屋の地に人々が集える経済活動と地域社会の復興が最低条件です。

はたらく姿 No.3

ポプラ保育園の除染に挑戦しました



渡部明幸医師・杉山いずみ医師を中心に院内保育園を除染。写真は、放射線量の計測の様子。

※このコーナーでは、福島医療生協で働く人々にスポットをあて、ご紹介していきます。

復興のための全面補償と 先の見通しを

鳴原さん夫婦はまもなく、仮設住宅に移る予定です。震災から百日が経過し、これからは被災者に対する周囲の受けとめ方も変化してくるのではないかと鳴原さんは考えます。山木屋住民の山木屋に対する気持ちも薄れていくのではないかと、不安もあります。東京電力に今後損害賠償請求するために、これまでの経費を書いたファイルを手にとりながら、再び農業を始めるためには、それまでの資金の援助と、軌道に乗るまでの生活補償をしてほしい、そして、避難者自身が自ら生きる力を取り戻し、次の一歩を踏み出せる見通しを政府は示して欲しいと訴えていました。

(取材 山本)

放射線と健康障害

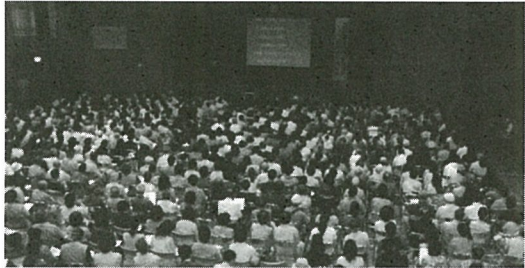


医療生協わたり病院
内科循環器科
渡部朋幸

この度の原子力発電所事故により、福島県民とりわけ放射線量が高い地域の住民は不安な生活を強いられています。これから三回にわたり、放射線の身体への影響および被曝を防ぐための防護策について概説します。初回は総論です。

低線量被曝と健康障害

放射線の身体への影響は、被曝する範囲(局所か全身か)、線量率(時間あたりの線量)、被曝していた時間などによって異なります。シーベルト(Sv)を越えるような高線量被曝の場合は数週間以内に死亡を含む様々な急性の障害が生じます。一方、今回の事故による放射性物質の大量放出においては、汚染された地域に居住することによる外部被曝、およびそこででの食物摂取による内部



6月18日、渡部朋幸医師を講師に、渡利地区自治振興協議会・渡利地区町会連合会主催で、放射線の講演会が行われた。会場の渡利小学校には750名の市民が詰めかけた。写真提供:渡利支所

二〇mSvでの影響はよくわかっていない
今回の原発事故後、福島県の一一般公衆の被曝の許容限度は年一mSvから二〇mSvに引き上げられました。そして二〇mSvを越えると予想される地域には避難が勧告されています。避難の目安とされている年二〇mSvの被曝は、癌発生や死亡が増えるとする報告と有意な増加はないとする報告が混在し、結論が出ていません。

発表や報道はきちんと監視を
一方、政府の発表やマスコミの報道が真実かどうかは国民がきちんと監視する必要があります。世界初の原子力事故と言われている一九五七

るまでの間に余分に死亡する人数が生じるとされています。現在国や県はこういったデータに基づき二〇mSvまでの被曝量では避難範囲としない方針です。これは確率的影響と言います。例えば宝くじの一等の当選本数が一本から二十本になっても、それでも自分には当たらないという考え方です。しかし突然二十倍もの被曝量を受け入れられないといわれても納得も安心もできない方が多いと思われます。

その2 東日本大震災に見た、福島医療生協の力

先月号に引き続き、震災当時の状況を職員のみなさんにつかいました。



北3階病棟看護長
齋藤美智子

スタッフの工夫で不自由をカバー
地震の時、回復期リハビリ病棟の北三階には、脳卒中や大腿骨骨折などの患者さん三十九名がいました。リハビリ回診中、激しい揺れに危険を感じ、医師をはじめ全スタッフが病室の患者さんのもとに走り安全を確保しました。古い建物だったので、

日常生活での注意点
最後に日常生活での注意点について述べます。二〇一一年七月上旬現在主な放射線量はセシウムと考えられており、地表や屋根などに沈着し、空間を漂っているのは殆ど少ないと考えられています。マスクや長袖などが要かどうか、窓の開閉や洗濯物の取り扱い、このあたりを勘案しながら個人で判断することが必要になると思われます。一般的には、屋外での活動後にシャワーを浴び

南三階病棟に全員で避難しました。強い余震が続き一階のリハビリ室と廊下に病棟機能を移すことになりました。エレベーターが使えないため人海戦術です。他部署からも職員が結集し、何度も階段を往復し病棟から物品を運び出しました。患者さんを背負ったり車いすを抱えておろしました。その日の夕食は廊下の『食堂』でしたが、いつものように提供することができました。駆けつけたご家族が「みなさんに守られ、ここなら安



北3階の病棟機能を1階に移しました。

たり、こまめに部屋を掃除するなどの行為は放射性物質を取り除くだけでなくこれからの季節の暑さや湿気を考慮しても有用であると思われれます。また、雨水と共に洗い流されたセシウムを含む水が、屋根の雨樋、道路脇の側溝などに集まり、空間線量率が高くなっているところがあります。むやみにこれらに近づかないことも必要になるうかと思われれます。いずれにしても、対処のためには正確な計測データに基づいて行われる必要があります。

食中毒について



栄養科 科長 関場 治美

梅雨明け待ち遠しい季節となりました。食品の腐敗も進みやすい季節ですから、食中毒についてお話しします。食中毒を分類すると、次のようになります。

- ①微生物によるもの
(サルモネラ、腸炎ビブリオ、黄色ブドウ球菌、ボツリヌス、O157、赤痢、ノロウイルスなど)
- ②自然毒によるもの
(フグ・キノコ毒など)
- ③化学物質によるもの
(農薬・有機水銀など)
- ④アレルギー様のもの
(鮮度の落ちた魚のヒスタミンなど)
- ⑤寄生虫によるもの
(トキソプラズマなど)

このうち、皆さんが日々、食べ物を腐らせないようにと気を配っているのは、主に①の微生物による食中毒予防です。

ここでは、その予防について、お話しします。

食中毒予防は、病原菌を「付けない、増やさない、やっつける」この3つが基本。皆さんが食べ物を管理する際には、次のことを気にかけるとうれしいでしょう。

1 菌を付けない！

- ・生の肉、魚、野菜に付いた土には病原菌がたくさんいるので、きちんとビニール袋などで包み、周囲に広がらないように管理する。
- ・生の肉や魚を扱うまな板は、それ以外の食品を扱うまな板と区別して管理。使った後は洗剤でよく洗う。
- ・調理や食べる前には、よく手を洗う。
- ・生肉を食べない。

2 菌を増やさない！

- ・鮮度の良い物を購入し、出しっぱなしにせず、すぐ冷蔵庫・冷凍庫で保管する。そして、鮮度の良いうちに使い切る。
- ・室温に放置すると菌は増えやすい。十度以下あるいは六十五度以上で保存すると増えにくいので食品の温度管理に注意する。

3 菌をやっつける！

- ・加熱調理する際は、中心まで十分に加熱し、残った食品を温め直すときも、同じようにしっかりと加熱する。
- ・まな板、タオル、ふきん、たわしなど調理用品は、使い終わったら洗剤と流水でよく洗う。定期的に熱湯や漂白剤で消毒する。
- ・ごみ入れも清掃し除菌する。

よく洗う。定期的に熱湯や漂白剤で消毒する。ごみ入れも清掃し除菌する。

以上のような注意をしても、食中毒に感染してしまうこともあります。しかし、少しでも軽症で済むためには、普段から腸を健やかに保ち免疫力を高めておきたいものです。味噌、納豆、ヨーグルトなどの発酵食品と野菜は善玉菌を増やし、免疫力を高めます。反対に菓子や甘味飲料の砂糖は、腐敗菌を増やし免疫力を下げます。

三度の食事を大切に万遍なく何でもいただき、お菓子などはほどほどに。「食中毒予防」と「バランスの良い食事」はつながっていたのです。暑い夏を乗りきるためにも、健康な腸を作りましょう。

ワクチンの接種が始まっています

ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん

国や自治体の補助によるワクチンの接種が、今年度から始まっています。わたり病院の小児科と婦人科でも実施していますのでご利用ください。



小児科 北條 徹 医師

こどもにとって重大な病気で、重症化によって死亡したり重い後遺症を残す病気に、「細菌性髄膜炎」と「急性喉頭蓋(こうとうがい)炎」があります。このため、日本では年間千人近くのこどもが苦しんでいます。この主要な原因菌がヒブ、肺炎球菌です。ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンは、これらを予防するためのワクチンです。接種回数や間隔については初回接種年齢により異なりますので、説明の書類を確認して下さい。できるだけ生後2ヶ月から7ヶ月の間に始めたいものです。

接種を希望する方は、前日午後5時まで(土曜午前12時まで)に電話で予約してください(人数制限あり)。5歳未満のこどもがいる家庭で、問診表や制度概要の書類が郵送されていない家庭は、各保健センターなどに問い合わせてみてください。



婦人科 佐藤麻里 医師

ヒトパピローマウイルスは子宮頸がんをひきおこすウイルスで、日本において、年間1.5万人が発症し1日に7人の割合で亡くなっています。ヒトパピローマウイルスワクチン接種を受けることと子宮頸がん検診を受けることにより、子宮頸がんを予防しましょう。

対象は中学1年生から高校1年生までで、合計3回接種することが基本です。

ワクチン接種料金 (1回)

	福島市	伊達市・伊達郡・二本松市
ヒブワクチン	800円	無料
小児用肺炎球菌ワクチン	1,100円	無料
子宮頸がんワクチン	1,500円	無料

あたたかい思いやりのある看護を一緒に行ってみませんか？

看護長室 治田幸子

わたり病院は一九七五年に設立され、「人権をまもる医療」を基本理念に「身近で頼りになる地域の第一線病院」として発展してきました。今回の大震災・原発事故では被災地からの患者さんを受け入れ、在宅患者さんの訪問や避難所への医療・生活支援なども積極的に実践してきました。



より良い看護を旨として一緒に励みましょう 南4階病棟の看護師のみなさん

護体制を最高ランクである「七対一」を申請しました。保健予防から急性期・在宅まで切れ目のない医療・看護

を、私たちと一緒に実践してくれる方を募集しています。熟練した技術を「手」で、思いやりのある心を「目」にして看護を創造しましょう。

勤務形態等についてはご相談下さい。まずはお電話下さい。また、お知り合いの方の情報をお寄せください。

連絡先 電話&FAX 024-521-6848 (わたり病院 看護長室)

誰もが安心して暮らせるまちづくりに向けた

わたしたちの支部三ヶ年計画

福島医療生協第六次長期計画のスタートの年にあわせて、各支部でも支部三ヶ年計画を策定しました。六月十九日に行われた第四十五回通常総代会の発言をもとに、靈山・川俣・蓬萊支部の三ヶ年計画をご紹介します。

今日は楽しかったと思える支部づくり



靈山支部 齋藤文子 さん

原発事故から百日、原発の危機は一向におさまりません。去年までのあたりまえの生活はなく、三ヶ年計画のスタートラインに立ってない実感さえあります。そんな中だからこそ求められているのが医療生協運動です。支部だより「はつらつ」発行を

一人ぼっちなくす ネットワークづくりを



蓬萊支部 松井貞子 さん

支部の活動として、健康チエック・健康まつり・福祉ま

基礎に、一、仲間づくり担い手づくりをする。二、楽しい七分学習三分の活動を強める。三、ひとりぼっちの高齢

たまり場づくりを進めたい



川俣支部 石河ルイ さん

川俣支部は、元気班会を中心とした仲間づくりや、他団体と一緒に町との話し合いを地道に続けてきました。こうした中で、国保特定健診

つり・週一回のヨガなどに取組んできました。しかし、単発的な活動だけではもう一歩進まないところがあり、地域にもっと役立つ活動を進めていくためにも拠点づくりが必要と考えています。第六次長期計画の中で、南ブロックへの拠点展開が検討されていることは大変うれし

者を支える取組みをはじめ。四、高齢者と次世代との交流をはかる班会を活発にする。と四つの柱を決めました。誰もが「今日は楽しかったな」と思える日が一日でも多くもてるよう、支部活動を強めていきたいです。

が福島市の医療機関でも受けられるようになったことはうれしい出来事でした。老人施設も六カ所になり、福祉面での充実も図られてきています。

昨年から飯野支部と達南ブロックを構成して、拠点づくりについても論議してきました。まだ具体化してはいませんが、組合員のたまり場は最低限実現していきたいと考えています。また、放射能汚染が広がるなかで、行政にも働きかけながら全ての人々が健診をうけることができる体制づくりを進めることも必要だと思えます。

く思います。

蓬萊団地も高齢化が進み、老人会や小旅行がなくなつたという話もあります。包括支援センターや民生委員の方々のつながりを強めながら、一人ぼっちの人をなくすつながりづくりを進めていきたいと思えます。

ホームヘルパー養成講座 2級課程受講生募集!!

わたり福祉会では、福島医療生活協同組合様の協力のもと、毎年ホームヘルパー養成講座を開催しており、今年で10回目を迎えます。ヘルパーとして働きたい、介護について学びたいなど熱意のある方はぜひお申し込みください。お待ちしております。

講習期間：9月1日(木)～10月25日(火)
募集定員：30名(定員を超えた場合は選考あり)
受講料：50,000円
講義場所：特別養護老人ホームはなしのぶ 福島市平石字堰ノ上3番地
実習場所：はなひらの、はなみずき、はなしのぶの事業所
募集期間：7月1日(金)～8月19日(金)

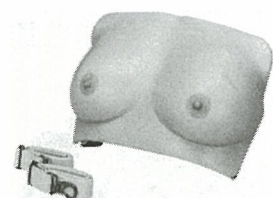
お申し込み・お問い合わせ先

社会福祉法人わたり福祉会
特別養護老人ホームはなしのぶ内
ホームヘルパー養成講座事務局
TEL 024-544-0711 担当:高橋雄史

乳がん自己チエック用モデルを 更新しました

乳がんは、女性の二十五人から三十人に一人がかかる、女性に一番多いがんです。定期的な健診が大切ですが、合わせて自己チエックを行うことで早期に発見することができ

入りました。班会や支部の学習会などでご活用ください。また、このモデルの名前を募集しています。お問い合わせは左記までお願いします。



福島医療生協組織部
TEL 024-522-1236
FAX 024-521-3475

ユニセフならびに東日本大震災への募金のご協力ありがとうございました。

*2010年度ユニセフ募金 総額22万890円(内、東日本大震災緊急募金15万円)
*東日本大震災募金 総額93万4,830円
多くの皆様にご協力いただきましてありがとうございました。
また、日本医療福祉生協連より、県に1千万円、福島市に500万円。全日本民医連より、県に4千万円、福島市に100万円と全国からの支援をいただきました。

今年も販売中

島原手延そうめん

360年の伝統をもつそうめんです。きれいに包装されており贈答用にも最適です。

50g×36束 4,200円 → 組合員特別価格 2,800円 お申し込み/組織部 TEL024-522-1236

INFORMATION

これからの行事

7月～8月

どうぞご参加ください

環境学習会

夏休みをふくしまで子どもと過ごす方々へ

◆日時/7月15日(金)10:00～12:00
◆場所/福島県青少年会館
講師 伊東達也さん(浜通り医療生協理事長)
事前申込制 電話024-522-1236

原水禁世界大会報告会

◆とき/8月24日(水)18:00～19:30
◆場所/わたり通所リハビリセンター

無料 法律相談会

●とき
7月14日(木) 13:30～15:30
8月11日(木) 13:30～15:30
事前申込制 電話024-522-1236
●相談員
深谷 拓弁護士(あぶくま法律事務所)